

# 沈滯した空氣を破る

## 五年ぶりの役場人事異動

高橋町長は七月二十七日附で当選後はじめての役場関係職員の人事異動をおこなつたが、昭和三十年度の町村合併いらいの大巾な異動であるばかりか、課長クラス全部の入れ替えは戦後はじめてで、沈滯気味だった府内の空気を打ち破つて活を入れた格好で役場内外にかなりの反響をあたえているが、この画期的な人事異動ぶり抒診してみよう。

## 総務課長に異數のバツテキ 大塚係長を

○このたびの人事は、全般的にタライまわしの感はあるが、町長即近の高橋総務課長を中枢部から遠ざけてこれまで問題の多かつた施設課長に移し、総務課長には異数のバツテキで大塚財務係長を据えたあたりは思い切った人事といえよう。

○異動があれば課長右翼の沼田財政課長は産業か総務だろうと取沙汰されていて、産業行政のベテランぶりが活かされて岡産業課長と入れ替つた。岡氏にしても財政は古巣で、ともに無難な動かしかたといえる。

○議会事務局長は専任であるべきだということは議

会事務課長も本立としたもの

○井登支所は若い松平社

長時代からの高橋町長の持論だつたため遂に実現した

わけだが、助役の経験のある坂元ラワン支所長を初代

事務局長に起用することに

なつたので、支所長は課長

クラスからといふ前例によつて加藤拓殖課長がその後

にまわされた。

○拓殖課長は補充せず助

役の兼務としたのは開拓

行政は土木施設や教育施設

の面で各課にまたがるため

金にまわされた。

○この人事異動について高橋町長はつぎのように語つた

異動の重点は、同じところ

にあの人ではと心配され

るが、眞面目にやつてしま

う。役場につとめる以上

はいづれ助役になり町長

になるという人物になつ

てはいづれも悩みの種となつてゐる。

小水力の農村電化はどこ

が、北電に移管するしか

方法はない。ことしから

国定資産税の引下げによつて北電だけでも年間五

するためとみられる。

○特に意外の意外の感を

あたえたのは、それぞれ永

らく農業委員会と教育委員

会の主のようになまつてい

た石沢、前田両係長を相

互に入れ替えたことで、これ

と猪狩学校教育係長が出現

した。

○この人事は総体的に

選舉中の高橋氏の反対

と、むしろ町長の身内に近

い線は重用せずに、序内の

沈滯した空氣を刷新する

とともに人材は登用してゆく

といふヘンリントを見せたよ

うで、オ第二次の係長クラス

以下の異動は注目されよう

と、これについて久保山春

道氏(観光協会事務局長)

は、

「前寺忠三朗氏(司法書士)

」は、「おそらく領村長時代

に勤いていた職員について

も、それについだわらずに公平

に扱つてゐるのに感心した

が、助役の経験があ

るから、漸次北電に引受けた

億円の減税となつたの

から、漸次北電に引受けた

ことにして、すぐさま

一年後になるか二年後にな

るか判らぬが努力したた

い。しかし電化による負

債は長期に返していく

ことになつたが、総務課に管

理を新設したのは、八千町

歩の町有林野から諸施設の

財産管理の万全を期そうと

いうもので、たとえば各課

に配置してあるオートバイ

の使用についてもルール

に適正に管理

しないようになつた

派閥的な感じではないか

い切つた人事だと思ふ」遠

いきつた。

○この人事は、平和農業

の多くが望んでいたと

いらしい大異動ではないか

派閥的な感じではないか

い切つた人事だと思ふ」遠

いきつた。

○この人事は、平和農業

</div